

# 校内研通信

本渡北小学校

令和5年 6月16日(金)

第1号

今年度の研究主題は「『自ら考え、ともに学び合う北っ子』を目指して～児童同士がつながり、学びをつなげる授業づくり～」です。学び合いを通して、これまでの学びと新しい学びをつなげたり、児童同士の意見の交流から取り入れた意見とつなげたりすることで、よりよい学級集団の形成や、学力の向上が望めるのではないかと考えています。

北小の強みは、天草で一番規模の大きい学校であり、児童数だけでなく、職員数も多いことです。教科部会が5つあり、年間30本以上研究授業を実施することができるのも、多くの先生方が校内研究に積極的に参加し、協力していただいているからこそです。本年度一年間も、どうぞ、よろしくお願い致します。

本年度も今の時点で36本の研究授業が予定されています。しかし、その36本全ての研究授業を参観することは難しいです。また、自分の所属する部会では、どのような課題があり、その課題の解決のために、どう授業を改善していくかの把握ができますが、他部会の研究の様子を把握することはとても難しいと思います。そこで、本年度は校内研通信を通して、先生方に各部会の研究授業の様子や、事後研で出た成果や課題を共有し、北小全体として同じ方向を向いて研究を進めることができればと考えています。私もできるだけ多くの研究授業を参観しようと考えていますが、授業の都合上参観できないところもあると思います。事後研も同様です。先生方にも協力をお願いすることがあると思いますが、お力添えいただけますと幸いです。

## 研究授業①を振り返って（道徳部会：櫻井先生）

主題名 温かい心を大切に（内容項目 B(6) 親切、思いやり）

ねらい 水害で大変な思いをしている子どもたちのために、お気に入りの絵本を送ることを決めたクマタの気持ちを考える活動を通して、相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

### 視点1 課題設定の工夫

「導入と終末で、内容項目に焦点かした問いかけを行い、児童の道徳的価値の認識の変容をみていく。」（構想案より）

→児童の実態を踏まえ、「自分本意な親切ではなく、相手の気持ちや立場を考え、進んで親切にしていこうとする児童」を目指す児童の姿として、そのゴールに向かって学習を進めるという芯が、最後まで一貫されていました。事後研の各学年のグループワークの中でも、「児童の体験をもとに課題を設定していた。」「『親切にする』という児童の実態を元にしたテーマ設定が、最後のゴールまでつながった。」など、児童の実態を踏まえて課題設定を行うことの重要性についての話題が多く上がっていたようでした。

また、ジャンプの問いも、さらに「相手を意識する親切」に目を向けるものであり、ねらいに迫る意識を高める、とても効果的な発問であったという意見が多くありました。

### 視点2 探究的な学び合いの充実

「全体交流では、考えの整理を板書に示し、板書を生かしながら、話し合いの視点を明確にしていく。」（構想案より）

→授業導入時の「親切な人ってどんな人?」、授業終末の「親切にするって

どういうこと?」というねらいに沿った、児童の考えの深化が両サイドを比較することで分かるとともに、中心発問を中央に板書することで、「親切」について多面的・多角的に考えたことが、視覚的に分かる板書になるよう工夫



されていました。また、ペアトークを発問ごとに取り入れられてあり、全員が発言する場が設定されるとともに、さらに児童同士がつながりながら、全体での意見の共有を行っていました。課題設定とも重なりますが、児童が深く考えられるような主発問、補助発問、ジャンプの課題がつながっていたからこそ、自ら考え、互いに意見を交わし合いながら、深い学びにつながっていったのではないかという意見もありました。

## ◎今後の研究授業で深めていきたいこと

### ①児童の実態を踏まえた「目指す児童の姿」の設定

(→視点1につながる)

児童の実態を踏まえ、まずは単元終了時に子ども達にどんな姿になってほしいか、具体的にイメージしていきたいですね。そこから、単元や一時間を通して何を学ぶのか焦点化し、子ども達の姿をイメージしながら発問を組み立てる授業づくりを、授業研究を通して考えていきたいですね。そのためにも、指導要領の解説や、教科書を読むなどの教材研究や、児童の実態把握を日頃から私自身行っていきたいと感じました。



### ②児童の実態や、発達段階を踏まえた「学び合い」の仕方の工夫

(→視点2につながる)

今回の櫻井先生の研究授業では、多くの場面でペアトークが取り入れられていました。ペアトークを取り入れることで、全員が発言する場が保障されたり、全体で共有するための準備ができたりなど、様々な効果がありました。学び合いにはその他にも、グループワークや討論形式、ワールドカフェ方式など、様々な方法があります。何のために、その学び合いを行うのか、目的を明確化するとともに、どんな学び合いの姿を実現していきたいか、北小全体として、引き続き考えていきたいと思えます。



最後になりますが、本年度最初の授業研究会のためにお忙しい中準備、そして授業をしてくださった櫻井先生、本当にありがとうございました。

## おわりに

初めて校内研通信を書きましたが、文章もまとまってなく、読みづらい通信になってしまい、すみません。これから回を重ねていくごとに、すっきりまとめられるよう精進していきます。

第7回校内研修(6/28)は研究授業②に向けての事前研になっています。授業者になっている先生方は、準備をよろしくお願い致します。また、授業者以外の先生方も、櫻井先生の研究授業を通して見えてきた課題を次につなげるために、日々の授業の中で工夫できることはないか考えたり、事前研の際により良い研究授業になるようたくさん意見を出していただいたりするなど、前向きに取り組んでいただけると嬉しいです。引き続き、校内研へのご協力、よろしくお願い致します。